

(様式第4号)

上田市 健康づくり推進協議会 会議概要

1 審議会名	健康づくり推進協議会
2 日時	平成29年12月25日(月) 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール
4 出席者	宮下会長、本道副会長、小林委員、下村委員、戸島委員、宮坂委員、大久保委員、若林委員、水出委員、小高委員、矢嶋委員
5 市側出席者	石井健康推進課長、中山健幸政策担当係長、川口健幸政策担当係長、緑川地域医療担当係長、橋詰保健予防担当係長、望月保健予防担当係長、遠藤母子・精神担当係長、宮山丸子地域健康支援担当係長、高木武石地域健康支援担当係長、吉澤真田地域健康支援担当係長、片田主査
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	1人
8 会議概要作成年月日	平成29年12月26日

協議事項等

1 開会(石井課長)
2 あいさつ(石井課長)
3 協議事項
(1) 第三次上田市民健康づくり計画(案)について
ア 第2回協議会の質疑について
前回の協議会后、追加・訂正した内容について説明。
(こころ分野)
・「市の取組」に新たに自殺予防教育について追加した。
(親と子分野)
・「支援や見守りが必要な妊婦の増加」のグラフの差し替えについて。
(身体活動・運動分野)
・歩くことの重要性について、「市の取組」の中に追記した。
・身体機能の低下を防ぐための事業の中に「ロコモティブシンドローム」「フレイル」という概念を追加した。
質疑
(委員) ・支援や見守りが必要な妊婦について。平成27年の35.3%から平成28年度で49.1%と増加しているのは、延べ人数なのか、実人数なのか。
(事務局) ・支援の数が一つの妊婦もいれば、複数の妊婦もいるが、ここで表しているのは実人数の妊婦の数であり、それが増加している。
(委員) ・身体活動・運動分野について。
ロコモティブシンドロームやフレイルという言葉については、注釈の明記が必要。
イ 6分野の現状と課題、施策の展開について
(ア) 歯・口腔分野(高木係長が説明)
(事務局) ○現状
・幼児のむし歯の罹患率は年々減少しているが、2歳から3歳にかけて増加している。
・歯周病が全身の健康に影響を及ぼすことを知っている人は8割いるが、定期的に歯科検診を受けている人は3割にとどまっている。
・歯周病検診の受診率は若い年代ほど低い値で推移している。
・60歳で24本以上、80歳で20本以上自分の歯を有する人の割合は増加している。

○推進施策

- ・歯や口腔の健康づくりに関する知識の普及・啓発
- ・むし歯と歯周病予防の推進
- ・口腔機能を育成・維持するための支援

審議

- (委員) ・乳幼児のむし歯の罹患率については、成果が現れている。
・6024 と 8020 についても、目標が達成されてきている。
・歯周病については、「40 歳で進行した歯周病を有する人の割合」の目標値を達成するためには、どうしたら良いのかが課題。それ以前の取組や評価が必要。
・「オーラルフレイル」という新たな考え方がある。かむ、飲み込むなどの口腔機能の低下によって身体の衰え(フレイル)につながる危険がある。この「オーラルフレイル」という言葉を明記してはどうか。
- (委員) ・8020 表彰の対象者はどのように選定されるのか。
- (委員) ・上小地域の歯科医院を受診した患者の中から選定している。
ポスターやホームページでも募集を呼びかけているので、自薦・他薦も可能となっている。

(イ) 栄養・食生活分野(橋詰係長が説明)

(事務局) ○現状

- ・肥満は男性に多く、40 歳代男性では約 2.5 人に 1 人となっている。
- ・女性は、20 歳代の 5 人に 1 人が、30 歳代の 4 人に 1 人がやせている。
- ・毎日朝食を食べている子どもの割合は、年齢が上がるにつれて減少している。
- ・20 歳代で、毎日朝食を食べている人は約 2 人に 1 人となっている。

○推進施策

- ・糖尿病等生活習慣病の発症と重症化の予防
- ・適正体重で成長し、適正体重を維持するための支援
- ・規則正しい食習慣を身につけ、実践するための支援

審議

- (委員) ・子どもの頃から 3 食食べる習慣がついていれば大人になっても規則正しい食習慣は継続されるのではないかと。子どもの食生活についての母親の考え方についてどの様に感じているか。
- (事務局) ・子どもの年齢が低いほど食事に関して熱心だが、子どもが成長し自分で食べられるようになると、少し意識が薄くなる傾向があるのではないかと考える。
- (委員) ・乳幼児や学童期を子育て中の母親に対してのアプローチが重要であると思う。その頃の食育について市ではどのように考えているか。
・高齢者のやせについて。デイサービスなどを利用していない在宅でのみ過ごす高齢者は、食事指導を受ける機会がない。そういった人の状況はどうか。どう指導していけばよいと考えるか。
- (事務局) ・詳しくは、次の食育計画のところで説明したい。

ウ ライフステージにおける健康づくりについて(川口係長が説明)

その他、計画全般について

審議

- (委員) ・「こころ」の分野について
体の健康については、健康な状態から疾病を予防する(一次予防)という視点が盛り込まれている。しかし、こころの健康については、ストレス過多や自殺など、健康を害してしまっからの視点が主で、一次予防の視点が盛り込まれていない。こころの健康が損なわれないようにするためにどうすればよいかという視点を持ち、「こころの健康の増進」という考え方に立った計画の策定ができれば良いと思う。
- (委員) ・分野ごとの健康づくりについて

教科書的に一般的なことがらが明記されており、市民が関心を寄せるような具体的な部分については記載が少ない。第2次計画を引き継いだ形式であり、時代にそぐわないと感じる部分もある。

- (事務局)・こころの健康について、指摘いただいたことはその通りであり、現在の計画では足りないと感じている。来年度、自殺対策計画を策定する予定であり、その計画の中で、こころの病気になる前の健康づくりの部分についても具体的な取り組みについて明記したいと思っている。
- ・分野ごとの健康づくりについては、国の健康日本21（第2次）の形式を踏まえながら、第2次計画を引き継ぐ形とした。大きく形態を変えない中で、可能な限りわかりやすい表現、具体的なニュアンスが伝わるように修正していきたい。

(2) 第二次上田市食育推進計画（案）について

ア 第二次上田市食育推進計画（案）について

(事務局) ○現状（健康づくり計画「栄養・食生活」分野と重複部分は省略）

- ・農家数、農家率ともに減少している。
(S50年 農家数 13,480戸 34.2% → 農家数 6,187戸 10.0%)
- ・学校給食使用食材に占める地元（上小地域）産食材の使用割合は、H28年度 45.6%で増加傾向。
- ・日本における食品ロスは H26年度推計で 621万トン。
H25年度より減少しているが、世界全体の食糧援助量の2倍近い量が廃棄されている。
- ・週7回以上家族と食事を食べる中学生の割合は、H28年度 81.3%で H23年度の 69.4%から増加している。

○推進施策

- ・生涯にわたり、健全な体と心を培うための食育の推進
- ・糖尿病等生活習慣病の発症と重症化を予防し、健康寿命の延伸につながる食育の推進
- ・食への感謝と理解を深めるための食育の推進

審 議

(委員)・歯科領域における食育推進の基本理念では、「食べ方（かむ、味わう、飲み込む等）」に着目している。日本歯科医師会のホームページにも掲載されているので参考にされたい。

(委員)・食生活改善推進委員会では、高校に出向いて調理実習を行い、何を食べればよいのか、どう調理すればよいのかを具体的に伝えている。楽しく調理することで、食べることに関心を持ってほしいと願っている。

(委員長)・指標に「7時過ぎに起きる子どもの割合」があるが、本文の中に子どもの起床時間についての記述がない。記述を加えたほうが良いのではないか。

(事務局)・子どもの起床時間については、記述を加えたい。

4 その他

(1) パブリックコメントについて

(事務局)・12月27日（水）から1月12日（金）まで、パブリックコメントを実施する。

(委員長)・パブリックコメントで出された意見については、いつ審議をするのか。

(事務局)・委員長・副委員長に相談して、4回目の審議会に諮りたいと思うが、承諾いただけるか。

(委員)・委員長・副委員長に一任することを承認。

(2) 次回審議会について

1月22日(月)午後1時30分 ひとまちげんき・健康プラザうえだ 健診ホールで開催予定。

(3) 答申について

2月21日(水)午後1時30分 市役所第一応接室にて、正副委員長から答申予定。